図書館だより

九里学園高等学校
図書委員会
印刷（株）川島印刷
TEL 21-5511（代）

「KUNORI MOVIE THEATER」

九里祭展示　8月30日・31日

山口　暁（3－1）

今年のテーマは「映画誕生の歴史」でした。夏休みに行った準備は、委員の出席率が高く、また多くの方々の手伝いもあり、スムーズに進みました。手伝ってくれた皆さん、ありがとうございました。

さて、今年は去年に負けないぐらい多くのものを制作したのですが、中でも力作を二つ紹介したいと思います。一つ目は映画ポスターです。先生方や生徒の皆さんに被写体としてご協力いただき、映画の宣伝ポスターを真似て作りました。二つ目はムービーです。図書委員や図書館の住人ブックマの日常、誘拐事件などを撮影・編集しました。

その他にも多くのものを制作しましたが、事前の計画を役員がしっかり立てました。そのため全体的にスムーズに作業が進みました。しかし、調べ係だけが思うように進まず、苦労しました。映画は、誕生前から現在の3D映画まで様々な発展を遂げてきました。全体の歴史を調べるとなると時間が足りません。しかし調べる範囲を狭める判断が遅くなってしまい、余計に時間がかかってしまったのです。来年はしっかり範囲を考えて調べていく必要があると思います。

様々な苦労がありましたが、公開当日は多くの方々が展示物を見てくださいました。ちょっとしたハプニング等はあったものの無事に終えることが出来ました。来年は反省点となった調べ係の事前準備をしっかりして、万全の態勢で九里祭に臨んで欲しいと思います。思い返してみると、確かに夏休み中の準備などは大変でしたが、充実した良い九里祭だったと思います。

映画の誕生

みなさんは、映画が誕生した日を知っているだろうか？

一八八九年に動く映像を見る装置『キネトスコープ』がエジソンによって発明された。これは、木製の箱の形をした装置で中に映し出される映像を一人ずつ双眼鏡で覗き込んで見る仕組みとなっていて、興行用に各国に輸出されたが、現在の映画の定義から少し外れている。しかし「映画」とは、キネトスコープのように一人ひとりで見るのではなく、入場料を支払い、スクリーンに上映された映像を、多人数でみるもののことだ。よって、キネトスコープは映画の誕生とされなかった。

一般的に映画の誕生日とされるのは、一八九五年一二月二八日である。パリのキャプシーヌ大通り十四番地にあるグラン・カフェ地下のインド風サロンでのシネマトグラフで初めて映画一般に上映されたのだ。シネマトグラフは、世界初の〝撮影〟と〝映写〟の機能を併せ持つ装置で、キネトスコープより大分軽く、重量5kgであった。また、一人一人が覗いて見るキネトスコープとは違い、映像をスクリーンに投映することによって、一度に多くの観客が映像を鑑賞できる。世界で初めて上映された映画に『ラ・シオタ駅への列車の到着』がある。お客さんが待っているラ・シオタ駅のホームに、蒸気機関車を先頭に列車がやってくる。画面の中で列車はだんだん大きくなり、映画をはじめて見た人たちは、列車にひかれるのではないかと怖がって逃げたといわれている。

（三年六組　中村愛莉沙）

クラス読書会

6／27

石田衣良　著「16～シックスティーン」

一年二組　茂木　意

クラス読書会、やはり本は人の感性を刺激するんだなぁと感動した。一年二組は運動部が多く、全て読みきった人は少なかったが、ラッキーにも本の選択に救われた。私達が読書会でテーマにした本は「16～シックスティーン」。この本は前作に「14～フォーティーン」で登場した人物が14歳から16歳になった姿を描いている。この本は思春期ど真ん中の少年グループが主人公になっている。この少年達、皆それぞれキャラが立っていて、とても面白い。そして、何より話が短編になっているため一話一話から受け取れるメッセージが異なっていて大変読みやすく、なおかつ深い。この本の一話をピックアップして話し合うような形で会を進行したが、なんとも皆の言葉に驚かされた。アイツがこんな風に思うんだぁとクラスのメンバー一人ひとりの発言にとても興味深いものがあった。全員で読書、そして同じ本、同じ話でも、それぞれが持つ感想はその人数だけあること。それがとても面白く、読書会の良いポイントなのかと思った。今後の読書会では一冊の物語を皆で読んで話し合いをしてみたい。

鈴木　精　著「ザンビアからの風」

三年三組　横山　貴穂

今回の読書会三年三組の課題図書は、鈴木精先生の「ザンビアからの風」でした。四月にTRACの生徒を三人受け入れた三組。〝国際交流が盛んだから〟ということでこの本にしました。

クラスのみんなに本を読んでもらった後、精先生から直々に講義を受けました。オーストラリアや日本のような豊かな国ばかりではないということ、貧しい国の人々の現実、そしてその国にたくさん溢れる子供達の笑顔…。みんなそれぞれに感じるものがあったはずです。

読書会当日はその講義をふまえた上で、一年三組と合同で「ワークショップ」を開きました。まず最初の一時間は「世界がもし百人の村だったら」という本をテーマに、六十人一人ひとりが世界中にいる人々になりきってもらいました。言葉の壁、そして貧富の壁を全員に感じてもらった後に「ワークショップ」開始です。三年一年合同の班を約十班作り、「どうすれば世界中の人たちが幸せになれるか」を考えて貰いました。みんな積極的に意見を出し合ってくれたようで良かったです。この読書会を通して、三組のみんながますます国際交流に興味をもってくれたのではないかと思います。

三校合同読書会

ナツイチ製作委員会 編（集英社）「あの日、君と～Boys」

『あなたの一行はなに？』

今回の三校合同読書会に選ばれた本は「あの日、君と～Boys」という短編集でした。そして、その中の二作品を題材にして話し合いました。学校学年と関係なく、みんながしっかりと自分の意見や感想を言え、スムーズに進めることができました。班の人たちの意見、感想は私と似ていたり全然違かったりして面白かったです。その中でも「ワタシの一行」の話し合いが面白かったです。ワタシの一行とは、自分が良いと思った一行を作品の中から探すことです。私の班では、それぞれが違う一行に目を向けていたので、その違いを楽しみながら話し合いを進めることができ、とても楽しかったです。

その後、ワタシの一行の帯作りをしました。紙に自分が選んだワタシの一行と何故自分がその一行を選んだのか書いて、あとは各々絵を描いたり、色ペンを使って装飾したりと思うようにアレンジしました。最後にみんなが書いた作品を各々見て回ったのですが、その人のイメージや個性が出ていて良かったです。

今回は会場校だったので、準備から始めました。そのせいか去年よりも終わったとき達成感に満ち、とても良い時間を過ごせました。

（二年四組　佐藤明日香）

図書委員研修旅行
生徒リクエストを活発に!!

三年三組　吉田　吏沙

私達は、七月十三日に委員研修旅行で山形市の山本学園高校の図書委員と交流会をしてきました。今後の委員会活動に活かせることを研修するため、各校委員会の年間活動の報告・質疑応答とワークショップを行いました。

山本学園には、九里とは違った活動がいくつもあり、有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。私が印象に残った活動は古本市と図書室の蔵書購入です。山本学園の文化祭では委員会主催の古本市があり、毎年委員は全校生徒から古本を寄付して貰い、委員が作成したおまけの栞とともに販売をします。おまけの栞や掘り出し物を目当てに来る人も多く、生徒だけでなく一般の方も大勢いらっしゃるそうです。帰る際にその栞をいただいたのですが、きれいなイラストが描いてあり、全員で大はしゃぎしてしまいました。次に蔵書購入ですが、山本学園では年に何回か本屋へ行き、委員が蔵書を選ぶ機会があります。九里でも図書リクエストBOXがあり、生徒の要望を受ける場が設けられています。しかし認知度が低く、リクエストも入りますが、購入・受入までに時間がかかってしまっているのが現状です。他校では、年に何回か全校生にリクエスト用紙を配布し、リクエストを取るという形式を活用しているところもあるそうです。今後、九里図書委員会では、リクエストBOXの形式のままで認知度の向上に努めるのか、また、他の方法を取り入れるのかを検討していきたいと思います。

また他にもワークショップで各校の生徒が一緒になった班で「理想的な図書館」をテーマに話し合いました。例えば、ブースを作る、季節ごとにイベントを開く、カフェを作る、猫を飼うなどのユニークな意見が出ました。今回のワークショップで出た意見を今後何かに少しでも活用していきたいと思います。

交流会のほかにも八文字屋書店で委員による書店購入を実施しました。本好きの私にとっては嬉しい時間で、各ジャンル委員お勧めの本を購入することができ、全体を通して充実した研修ができました。

図書委員研修会
読み聞かせの極意!!

2年6組　江部ひふみ

私は、九月十日に行われた生徒図書委員研修会で「絵本の読み聞かせ」の研修に参加しました。講師の岩沢ちか先生の話を聞き、今まで関心がなかった「読み聞かせ」の面白さを知ることができました。

まず研修では読み聞かせの絵本を選ぶときに役立つ、様々な絵本の特徴を学びました。絵本は人によって、それぞれ受け取り方、反応も違います。例えば、赤ちゃんだったら色使いの鮮やかな絵本などを選びます。赤ちゃん以外は読む絵本は自由です。しかし人によって面白いと感じるかは違いがあります。この絵本が読み聞かせで好評だったから、別のグループでも好評かというとそうではないのです。いま世界にはたくさんの絵本があり、日本だけでも数え切れない絵本があります。大切なのは、読み聞かせをする人が多くの絵本に出会うことです。それが読み聞かせの絵本選びに役立つのです。また何度も読み聞かせを経験して学んでいくこともできます。

また研修の中では読み聞かせのやり方も学んできました。読み聞かせの練習方法や姿勢、めくり方、角度など様々な工夫があります。私は読み聞かせをしたことがなかったので、初めて知ることが多く、とても驚きました。読み聞かせは、ただ声を出して読めば良いものだと思っていたからです。もし読み聞かせの機会があれば、研修で学んだことを活かしていきたいと思いました。

絵本は小さいときに一番読むことが多いものです。私も小さい頃よく読み、読み聞かせをしてもらいました。今は手にとることは減りましたが、研修を通して高校生でも絵本と触れ合うことの楽しさや良さを感じられました。

～読み聞かせポイント～

1．読み聞かせの練習方法
　本番までに三回練習する。
　① 黙読
　② 声に出す
　③ 本番と同じように
※感情や演技をあまり入れない

2．めくり方や角度
①絵本隠さないように、手を動かす
②持ちづらいので本のカバーをとる
③絵本が斜めにならないように
　下のところを持つ

3．その他
①ルールはないので、自分なりに読む！
②絵本とたくさん出会って、好きになる！
③読み戻しはしない
　（世界観が途切れてしまうから）

読書の楽しみ

カッコつけたい人のために

上村　英俊先生

村上春樹がデビューした頃、私はまだ、大学生だった。読んだきっかけは、いつものことだが、その時つきあっていた女の子の紹介だ。「一晩で読めるから」と言われ、一晩で読んだ。今では彼女よりも長いつきあいとなっている。

下心で知った作家が今では、日本を代表する大小説家だ。彼は、翻訳もする。レイモンド・チャンドラーが彼の手で翻訳され、とてもうれしくなった。ハードボイルドの推理小説は、小学生の頃には難しい文体に感じられたが、今はとても「カッチョいい」と思う。

主人公の私立探偵フィリップ・マーロウの言い回しは何度もまねをした。映画ではハンフリー・ボガードが演じていて、ボギーはかっこよすぎてまねをしても全くサマにならない。それでもちょっとは近づきたくて通勤にステンカラーのコートを着、帽子をかぶってみる。全てイメージはこの作品。そしてボギーだ。（決して『刑事コロンボ』ではない）

「さよならを言うのは、少しだけ死ぬことだ」なんてね。子どもの頃はわからなかったことが、大人になるとわかってくるのは大人の醍醐味というものだ。

昨年は「ロング・グッドバイ」「さようなら愛しい人」「リトルシスター」と続けて読んだ。村上氏は、元々チャンドラーの翻訳を手がけていた清水俊二氏に敬意を表しながら、「村上春樹の世界」をしっかり作っている。

「ギムレットにはまだはやい」というが、「『ギムレット』ってどんな飲み物？」きっと大人の味なのだろう。

私の好きな主人公

宝生闇魔

中村ふみ　著　『裏閻魔』　　3年4組　佐藤ゆかり

私が今まで読んだ本の中で一番印象に残り、心惹かれた主人公は「裏閻魔」に出てくる「宝生閻魔」です。

彼は私が今まで読んだどの作品にはない異質な主人公でした。主人公というと誰しも考えるのは強くて勇気があり、正義感溢れるものだと思ってしまいますが、この宝生閻魔は必死に生にすがりつく人間の醜いところをさらけ出したあげく、長い長い永遠ともいえる時を過ごす存在となってしまいます。その長すぎる人生を、苦しみながらも愛する人を見つけ、数々の窮地に立たされても持ち前の直感と頭の回転の早さで切り抜けていくところが一番の見所です。そして彼の宿敵である「夜叉」も閻魔の魅力をより一層引き立てています。夜叉も閻魔と同じく人をやめ、自身に鬼を宿す存在ですが、彼は閻魔とは違い、世渡り上手で、人脈もあります。閻魔とは正反対の第二の主人公とも呼ぶべき人物です。夜叉は閻魔の姉をその手で殺しながらも平然としていて、自分の邪魔をしようものならたとえ親族であろうとも平気で殺してしまうような危うさを持っています。毎回現れる度に閻魔の心をかき乱し、閻魔の中の憎しみや殺意という人間の黒い部分を引き出し、さらに閻魔を魅力のあるキャラクターにしています。

閻魔の一番良いところは、その身に鬼を宿し、永遠に近い年月を生きることになったというのに、いつまでも人間らしく、どこまでも情に溢れた、人間よりも人間くさい彼の生き方です。私はとても惹かれ、また、彼のようにたくましくも真っ直ぐに生きていけたらどんなに良い人生になるだろうと考えずにはいられませんでした。そんな彼が私の一番好きな主人公です。

編集後記

今回の図書館だよりは前回よりもスムーズに編集することが出来ました。ただ印刷が遅れてしまいました。一年間図書館だよりの編集が出来てよかったです。

（3年　中村）